

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

音楽

音楽的な見方・考え方を働かせ、
自分の思いや考えを
表現する力を高める



はほろ
北海道羽幌高校

小山知倫 こやま・ともり



同校に赴任して1年目。
マネジメントグループ。芸術科(音楽)。

学校概要

◎設立 1950(昭和25)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約50人

◎2022年度卒業生進路実績 国公立大は、小樽商科大、帯広畜産大、北海道教育大、北海道大、公立はこだて未来大、名寄市立大に6人が合格。私立大は、札幌学院大、札幌国際大、星槎道都大、北海学園大、北海道医療大、北海道科学大、東京農業大などに延べ18人が合格。短大・専門学校進学14人。就職12人。

私が
目指している
授業

音楽に対して感じたよさや美しさについて、自分なりの考えを持ち、それを表現できる資質・能力を生徒に身につけさせたいと考えています。そして、表現(歌唱・器楽・創作)や鑑賞といった幅広い音楽活動を通じて、自分の思いや考えを表現できる力を高めていくことで、生活や社会をよりよくしていこうとする実践力も育みたいと思っています。

生徒は、歌唱や器楽などの技術の習得が「音楽『を』学ぶ」ことだと捉えがちです。授業ではそれだけでなく、音楽にかかわる課題に個人やグループで取り組む中で、自分自身の考えや他者の考えを尊重することなどを「音楽『から』学ぶ」視点が重要であることを、生徒に示しています。

授業レポート

本時の概要

【対象】1年生 【教科・科目】芸術・音楽I

【題材(*1)】歌唱「歌よ、愛を語れ！」

【題材の目標】様々な国の「ラブソング」の曲想、楽曲の構造や歌詞、言葉の特性と曲種に応じた発声とのかかわりについて理解を深め、主体的・協働的に歌唱活動に取り組む。

【授業時数】全6時間のうちの1時間目

ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



題材(単元)の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 題材の中核となる楽曲を聴く ⌚ 5分間



4月に、J-POPを教材として曲の構成や歌詞に込められた思いを表現する歌唱方法について学んだことを振り返った後、題材の中核となる『Caro mio ben』を鑑賞。歌が作られた時代と国、歌詞の内容を生徒に推測させると、生徒から「明治時代のヨーロッパ?」「スペイン語?」「平和!」などの声が上がった。

2 題材と本時の課題を確認 ⌚ 10分間



小山先生は、『Caro mio ben』が18世紀のイタリアで作られたラブソングであり、題材の課題は「人はなぜ愛を歌うのか、どう愛を表現するのか」の考察であると説明。「歌詞の内容と楽曲の特徴、歌手の歌い方から、ラブソングらしさとは何かを考えよう」と、本時の課題に取り組む上での視点を伝えた。

3 日本とアメリカのラブソングを考察 ⌚ 25分間



日本とアメリカのラブソングを3曲ずつ、それぞれサビの歌詞を読んでから鑑賞。メロディーや歌い方と、歌詞の内容とのつながりに着目し、表現しているのは喜びか、失恋かなど、各曲の「愛の方向性」を考えた。生徒はグループで話し合い、「失恋した自分を納得させようと、つぶやくように歌っている」などと考察した。

4 5人の歌手の表現を聴き比べ ⌚ 10分間



5人の歌手が歌う同じ楽曲を聴き、「歌い方や伴奏の特徴」「グッときたポイント」をワークシートに記入した。次時は最終発表会でグループで歌う曲を選ぶ予定だが、その際、選んだ曲をどのように表現を工夫して歌うのかなどを論理的に語るようにするため、楽曲を聴き比べ、表現の特徴を考察させた。

*1 「音楽」では、学習指導要領の内容を構成するまとまりとして、「単元」ではなく「題材」を用いることが一般的。

発問・課題設定の観点



楽曲の特徴を
切り口にした課題で、音楽的な
見方・考え方を働かせる

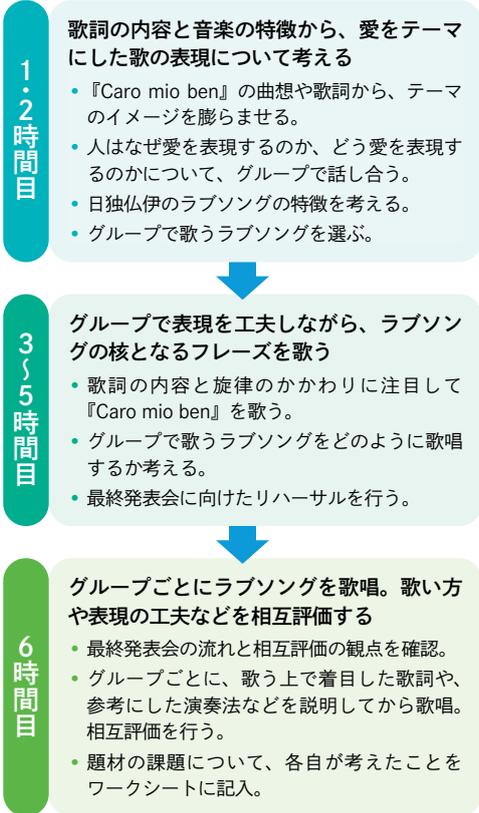
生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるような課題設定を心がけています(図1)。本時では、『Caro mio ben』などの楽曲を聴き、「ラプソングらしさ」を考察することを課題としました。曲調などの楽曲の要素を学んだり、歌詞の理解とそれに即した効果的な歌唱法を考えたりすること以外にも、「ラプソングはなぜ古今東西に存在するのか」「国こ

とにラプソングの特徴はあるのか」といった問いを通じて、異文化理解や歴史的背景も考察させました。

本校には、考えることが苦手な生徒や、自分の考えを言語化することに不慣れた生徒が少なくありません。「なぜその歌い方がよいと思うのか」などと問いかけ、楽曲について自分なりに考えて、論理的に説明する場を必ず設けています。

音楽と生活・社会・地域との関係を意識させようと、指導計画にはサウンドロゴ(*2)やBGMを鑑賞して特徴や効果について考えたり、地域の魅力を伝える「ご当地演歌」を創作したりする題材もあります。

図1 題材「歌よ、愛を語れ!」の展開



※学校資料を基に編集部で作成。

学習評価の工夫



生徒の鑑賞や
表現活動の充実に向け、
形成的評価を丁寧に行う

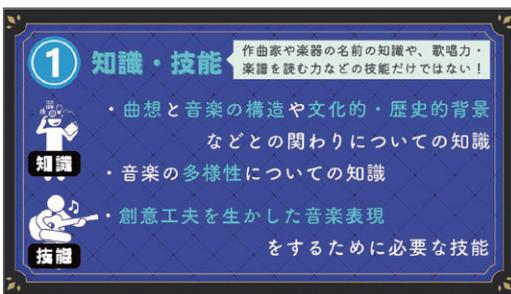
本校で育成を目指す資質・能力を踏まえて設定した各題材の目標、及び学習評価の観点は、年度当初に配布する「学習ガイドブック」(コラム参照)に掲載し、生徒に伝えています。学習評価の観点を示す際には、学習指導要領を参考にするとともに、分かりやすい表現を心がけています。そして、習得してほしいのは、「作曲家や楽器の名前などの知識や、歌唱力・楽譜を読む力などの技能だけではない!」などと、科目で育成を目指す資質・能力とかわかる観点を示しています(図2)。

どの題材でも必ず中盤の授業でグループワークを取り入れています。活動中、私は机間指導をしながら、一人ひとりの発言や取り組み、ワークシートの記入状況を観察し、生徒が自分の考えを論理的に表現できるようにアドバイスしています。そこで見取りは形成的評価であり、成績

には反映していません。あくまで生徒の鑑賞や表現活動を充実させるための支援と位置づけています。

歌唱や楽器の発表会などの活動は必ず私が撮影し、それを生徒の振り返りの材料として提供してきましたが、今後はこまめにチェックポイントを設け、生徒自身が撮影した動画を提出させることを検討中です。そうすることで、私が授業中に十分に見取れなかった生徒の学習状況や、授業が進む過程での生徒の変容を把握できるようになります。生徒自身が記録することで、自分の成長を実感したり、課題の発見につながったりすることを期待しています。

図2 年度始めに生徒に示した評価の観点(抜粋)



※学校資料を抜粋して掲載。

* 2 効果音やメロディーを使い、企業名や商品などを宣伝するための楽曲。



「学習ガイドブック」で学習意欲を引き出す



元々、教師用の指導用資料として開発していたものを、生徒向けの「学習ガイドブック」として改訂した。資料やスライドの作り方は、デザイン制作の書籍を読んで学んだ。

生徒が学習に見通しを持ち、主体的に授業に取り組めるよう、授業の手引きである「学習ガイドブック」を年度始めに配布しています。

●音楽の授業の全体像を伝える

「学習ガイドブック」には、「『音楽Ⅰ』の位置づけ」「身につけられる力」「評価方法」などの説明と、全題材のシラバスを掲載。音楽を学ぶ意義と魅力が伝わるような1冊にしました。「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の各分野の授業の流れと、題材間の関係図を示し、何が学べるのか、何が身につくのかを見通せるような工夫もしています。

●題材のシラバスに、学習内容の記入欄を用意

「取り組んだ学習活動」「学んだこと・印象に残っていること（到達度を5段階で自己評価）」「今後生かしたい場面」の記入欄を題材のシラバスに設け、各題材の最後の授業で記入させています。音楽を学んだ軌跡として、卒業後も手元に置いてもらうことが理想です。

●題材の学習内容と他教科との関連も示す

題材のシラバスには、他教科との関連も示しています。外国語の歌詞を扱う題材は英語、リズムやビートについて学ぶ題材は体育、音楽の歴史は地理歴史など、他教科とのつながりを意識して学ぶことで、生徒の興味・関心が教科を横断して広がっていくことを期待しています。

●分かりやすさとワクワク感を両立するデザインに

強調したい点は目立つ書体で大きな文字にするなど、伝えたいことがぱっと見て分かるデザインを心がけています。Canva（*3）を利用してイラストやポップな見出しを置き、授業へのワクワク感も演出しています。授業で使うスライドなども、同様の点を意識して作成しています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

成果と展望

音楽を通じて、
生徒が社会に目を向ける
機会をもっとつくりたい



生徒を対象とした授業評価のアンケートの結果を見ると、「説明や指示が的確で分かりやすい」「質問に丁寧に答えてくれる」「ICTで学びの効率化が図られている」などの項目の肯定率が9割を超えており、生徒が授業を十分理解してくれていると捉えています。「感性」だけではなく、論理・分析・言語化といった「思考」を重視する私の授業を、「高校生ならではの学習活動」だと表現した生徒もいました。

今後は、音楽と生活や社会とのかわりを意識する場面をより積極的に設けたり、生徒が探究した音楽活動を地域に発信・還元したりする授業づくりをすることが目標です。また、各題材の「問い」に今以上のつながりを持たせ、1年間を通して大きな探究活動になるような学びのデザインも模索していきます。

*3 世界中のすべての人が自由にデザインを作成し、公開できることを目指すオンラインデザイン、及びビジュアルコミュニケーションのプラットフォーム。
<https://www.canva.com/>